

# 坂出市子ども読書活動推進計画（第4次） （案）

令和3年 月

香川県坂出市

## 第1章 子ども読書活動推進計画の概要

---

### 1. 計画策定の趣旨・経緯

子どもは読書を通じて、言葉を理解し、考える力をつけ、表現力を高めていき、創造力豊かに成長していきます。乳幼児期から、基礎となる家庭での教育力の向上に取り組むことが読書離れの改善への足掛かりとなります。

そのため、家庭・地域・学校が共働して、読書に関する情報を共有しながら、子どもたちがその発達段階に応じた多様な本に触れ、読書の楽しさを感じ、自己の表現をできる環境づくりが求められています。

子どもの読書に関する国を挙げての取り組みとして「子どもの読書活動の推進に関する法律」が平成13年12月に施行され、この法律に基づき本市において、平成17年12月に「坂出市子ども読書活動推進計画」、平成23年3月には「第2次坂出市子ども読書活動推進計画」、平成27年3月には「第3次坂出市子ども読書活動推進計画」（以下「第3次計画」という。）を策定しました。本市では、推進計画に基づきブックスタート・一斉読書活動・学校図書館図書整備等の事業を推進するとともに、家庭・地域・学校等、社会全体で子どもの読書活動の推進に努めてきました。

しかしながら、子どもの読書に対する意欲について前進は見られるものの、学年が進むにつれ読書量が減少していくという傾向は改善されておらず、さらなる取り組みをしていく必要があります。また、近年では保護者の電子メディアに関わる時間の増加やスマートフォンで子どもをあやすなどの行動による、乳児の成長への影響が懸念されています。

「第4次坂出市子ども読書活動推進計画」（以下「第4次計画」という。）は、第3次計画期間における成果や課題、諸情勢の変化等を検証し、今後5年間にわたる施策の基本的方針と具体的な方策等を定めたものです。

### 2. 本計画の基本理念

本計画は、「子どもたちの豊かな心と未来への力を育む読書活動を」を基本理念に、本市のすべての子どもが、自主的に読書活動を行うことができるよう、家庭はもとより保育所（園）・こども園・幼稚園・小学校や中学校、大橋記念図書館・地区公民館・児童館等、日常的に子どもに接する人や機関が、共通の認識と目標を持ち、子どもの成長の過程でそれぞれが果たす役割を分担しながら読書環境を整備し、施策を総合的かつ計画的に推進していくことが必要です。

### **3. 本計画の位置づけ及び進行管理**

本計画の推進は、第3次計画で掲げた基本方針を引き継ぎ、坂出市教育大綱、坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略と整合性を保ちながらさらなる子どもの読書活動を推進に取り組むものです。

本計画を推進するため、「坂出市子ども読書活動推進会議」により計画に対する進捗状況を把握し、効果的に推進を図ります。

### **4. 財政上の措置**

本計画に掲げられた各種施策を実施するため、必要な財政上の措置を講ずるよう努めます。

## 第2章 子ども読書活動の現状と課題

第3次計画の現状を把握するために市内の保育所（園）・幼稚園・こども園の幼児の保護者、全小学校児童（低学年は保護者）、全中学校生徒に御協力いただき、アンケート調査を実施しました。（以降グラフはアンケート調査をもとに作成）

### 【調査実施時期】

令和2年10月（対象月9月）、回収数計5,733人

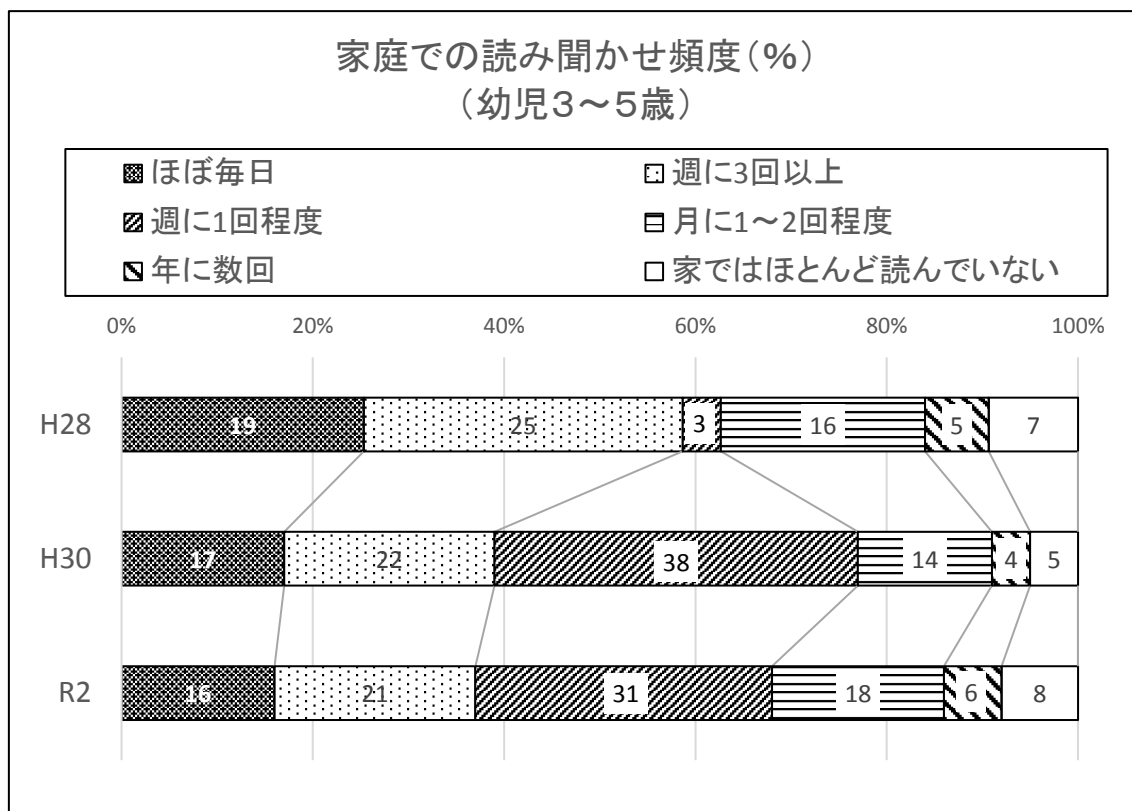
### 1. 保育所（園）・こども園・幼稚園における読書活動

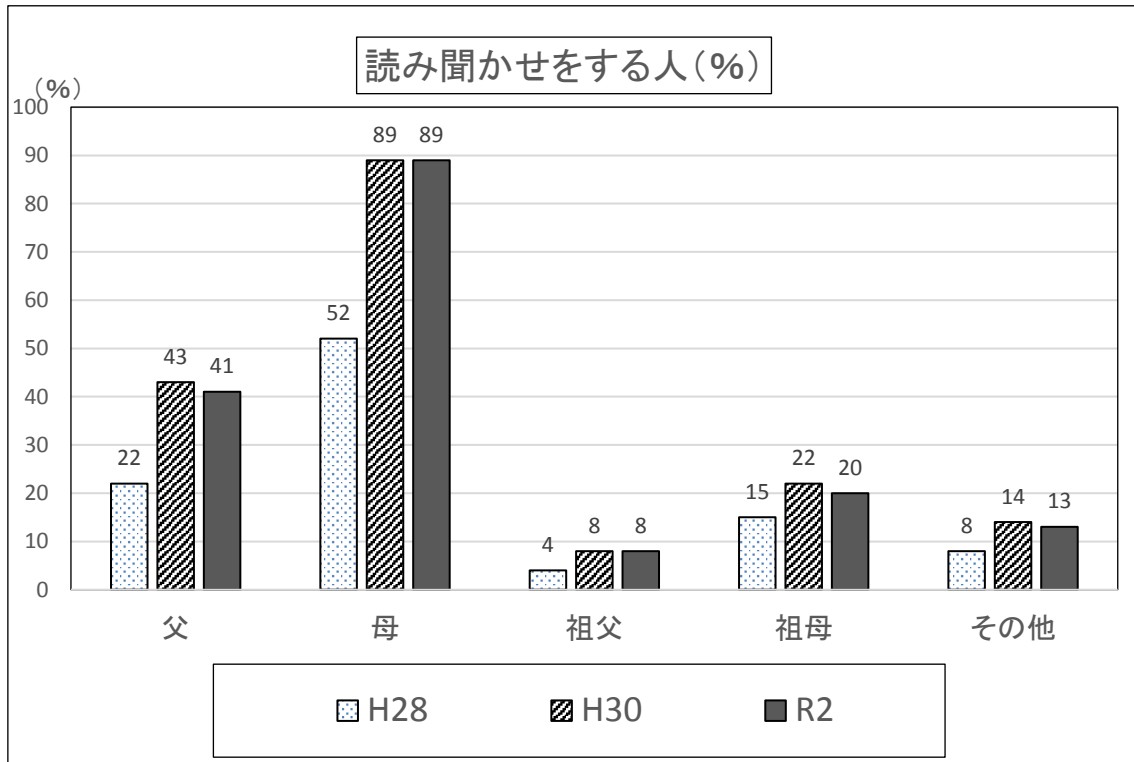
#### (1) 第3次計画の取り組みと成果

絵本は、その中に広がる豊かな世界を感じたり、生きる力を育んだりすることのできるすばらしい教材です。保育所（園）・こども園・幼稚園では、毎日の読み聞かせや絵本の貸出しに取り組むことができました。また、関係機関と連携を深め、大橋記念図書館の移動図書館を利用して保護者と一緒に本を選ぶ体験や保護者ボランティアによる読み聞かせ等にも取り組みました。

#### (2) アンケートの結果による現状

家庭での読み聞かせ頻度は、減少傾向にあります。





※H30年アンケートより複数回答可に変更のため、全体数値が上昇

### (3) 課題

読み聞かせによる育児参加への啓発

母親だけでなく家族による読み聞かせを進めていくことで、その頻度を上げることができるので、育児にかかわる人全般に読み聞かせの重要性を伝えるとともに、実際に体験できる場を設けて、その方法や効果について知ってもらうことが必要です。

## 2. 小学校・中学校における読書活動

### (1) 第3次計画の取り組みと成果

#### ① 小学校・中学校の取り組み

小学校・中学校では、学校司書による読み聞かせや本の紹介等、各校で工夫した読書活動が展開されています。朝読書の有効性が認識され、学習面だけでなく情操面での効果も期待されています。地域読書支援ボランティアによる読み聞かせ活動も広がっています。

市内の全小学校・中学校で朝の読書活動がほぼ定着し、読書の習慣化が図られました。児童生徒がそれぞれ自分の読む本を決め、朝の始業前の時間などを利用し読書に取り組むことで、落ち着いた雰囲気ですchool生活をスタートできるという効果も出ています。

#### ② 学校図書館の整備と活用

小学校に配置した学校司書により学校図書館の整備を進め、各教科等において司書教諭や担任と協働して学校図書館の積極的な利用を進めることができました。

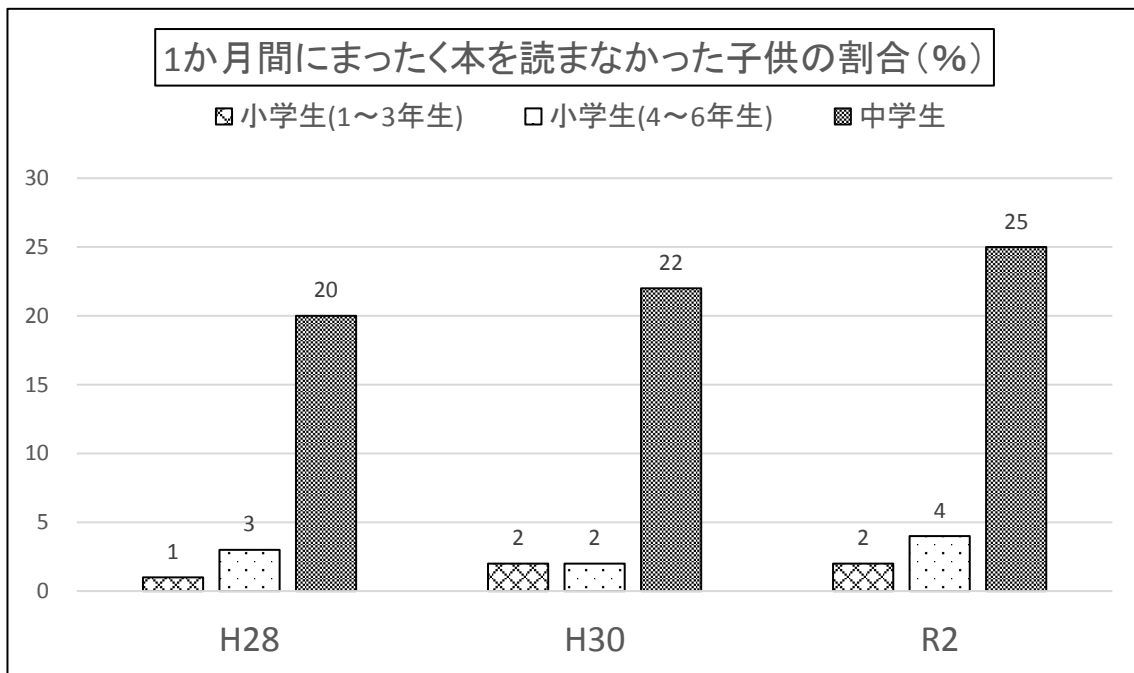
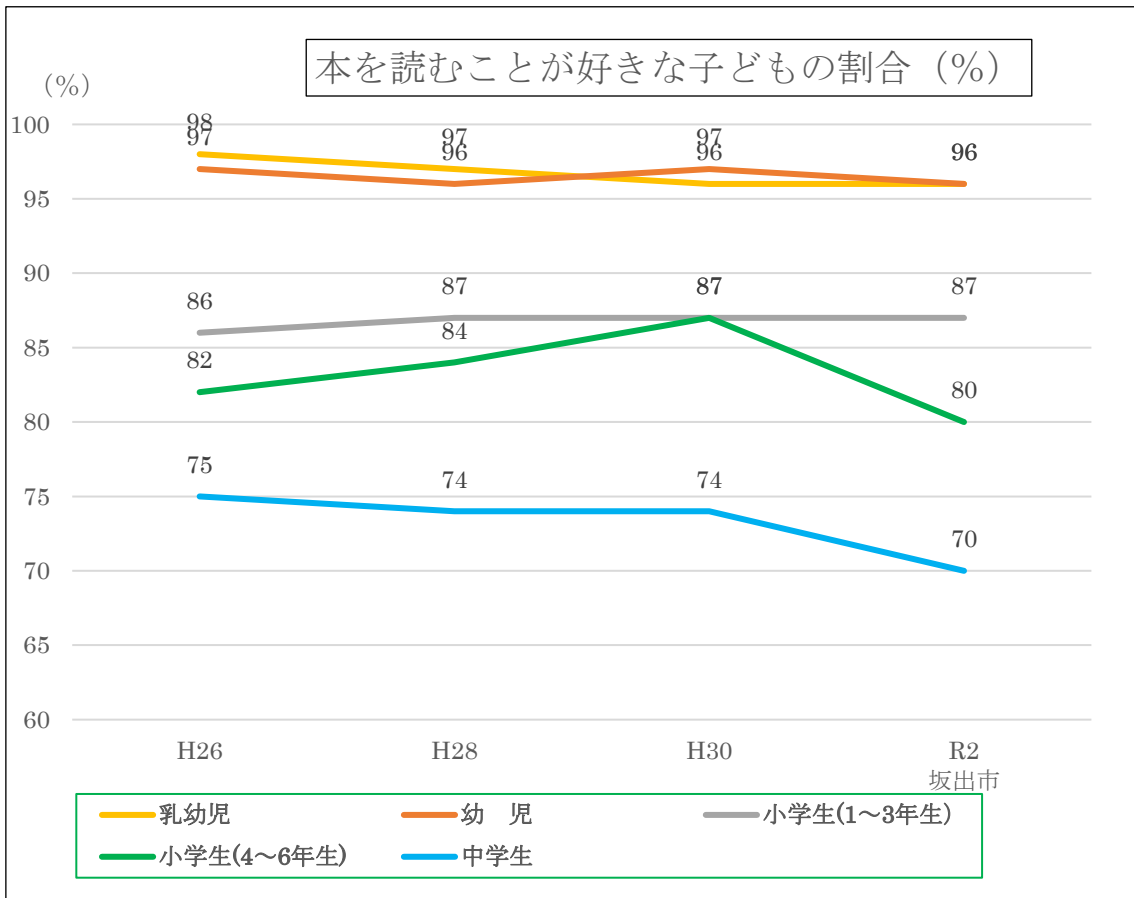
また、校内の読書週間の取り組みも活発になり、読書クイズの企画等、図書委員会の児童生徒が主体的に取り組む様子が見られました。

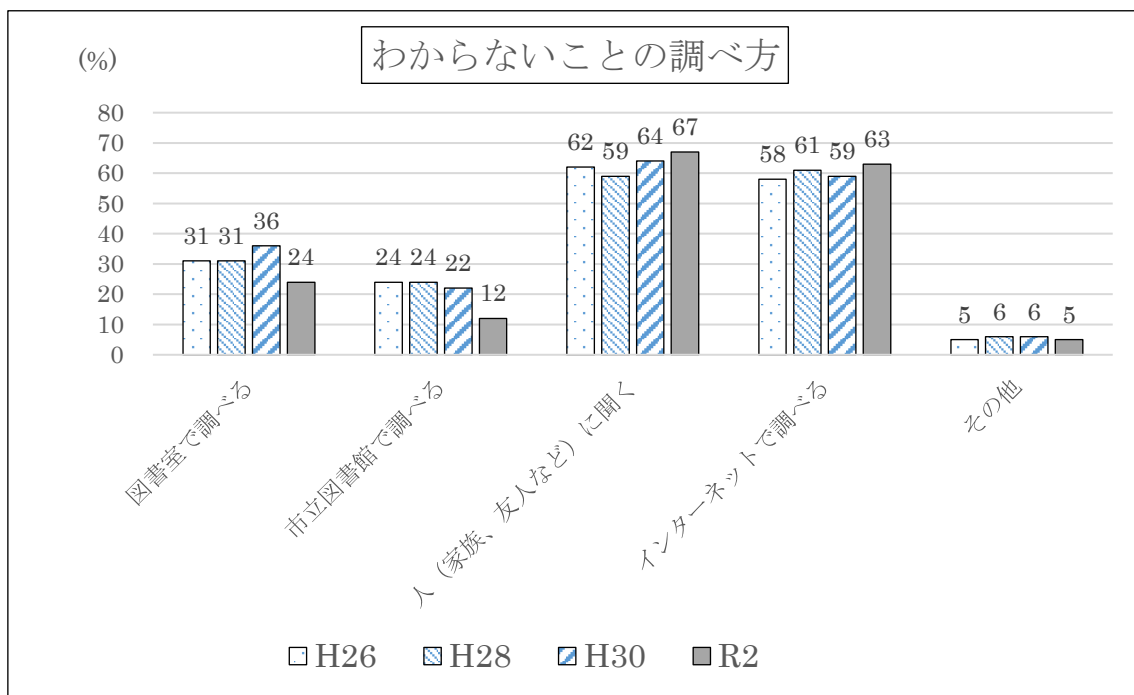
#### ③ 大橋記念図書館との連携

小学校では大橋記念図書館の移動図書館や図書館学習を通して、図書館について学び、また、出前授業では、新しい本との出会いに喜びを感じる機会を設けました。

### (2) アンケートの結果による現状

本が好きな子どもは年齢を追うごとに減少傾向にあり、中学生になると1か月まったく本を読まない生徒が増えています。調べ学習についても、学校図書館・大橋記念図書館を利用する割合が減少しています。





### (3) 課題

#### ① 学校司書による読書活動のさらなる充実

平成 28 年度から小学校の学校図書館に学校司書が配置され、蔵書管理や環境整備が進展するとともに、学級担任や司書教諭と協働し学校図書館を活用した授業支援も進んでおります。今後は、読書習慣が定着するよう大橋記念図書館との連携や家庭啓発、地域読書支援ボランティア等の取組をさらに推進する必要があります。

#### ② 中学校図書館へ学校司書の配置

読書離れが進む中学校で学校図書館に学校司書を配置し、各中学校の図書担当教員と協力して学校図書館の運営・整備を図る必要があります。



### 3. 家庭・地域・図書館における読書活動

#### (1) 第3次計画の取り組みと成果

##### ① 本を通じた子育て支援サービスの充実

「こどもの読書週間」や夏休み期間に、図書館まつりや読書講演会を実施し、子どもと本の出会いの場をつくりました。また、紙芝居の会やおはなし会等を定期的に行い、令和2年度より、乳幼児を持つ保護者が子どもと一緒に気軽に図書館を利用できる取り組みとしてカンガルータイムを企画・実施しました。

読みメンプロジェクトを継続し、男性の読み聞かせを推進する「読みメンのーと」の改訂版を作成しました。新たに妊娠期から就学までの子どもを持つ保護者へのおすすめの本の紹介・読み聞かせのコツ等を掲載した「すくすくえほんBOOK」を作成しました。

##### ② 国際理解を深める取り組み

子どもたちの国際理解を深めるため「せかいのえほんコーナー」を設け、世界11か国の言語の絵本を収集しました。収集した外国語絵本を活用して、国際交流員や大学の留学生等を招きそれぞれの母国語で絵本の読み聞かせを体験する「外国語絵本の読み聞かせ会」を開催しました。

##### ③ 出前授業

外部から講師を招き、幼稚園・小学校・中学校・高等学校で、自分の選ぶ本を図書館の蔵書とするワークショップや読み聞かせの講演など、その年代に応じた出前授業を実施しました。

##### ④ 子どもの本の情報提供

子ども向け図書館報「こどもとしょかん」「ティーンズ図書館」を発行し、新しく入った本を紹介する等、子どもの本の情報を定期的に発信しました。また、テレビ・ラジオ等各種メディアと連携して番組のコーナーを持ち「図書館マップ」や「図書館情報」等、子ども行事の情報を広く周知しました。

##### ⑤ 地域の各施設との連携

大橋記念図書館より児童館や子育て支援施設等への貸出を積極的に推進を図りました。

##### ⑥ 職員の資質の向上

司書は担当係会を定期的に関き、情報交換と連携体制を強化しました。また、子どもの読書活動推進に関する研修会に参加し、能力と技術の向上を図りました。

##### ⑦ 大橋記念図書館利用状況

大橋記念図書館の貸出冊数は計画開始時と比べ増加しています。特に、

児童図書の貸出の伸びが全体を押し上げています。

#### 利用状況

年間貸出冊数(全体)				
年度	平成 26 年度	平成 28 年度	平成 30 年度	令和元年度
個人	313,851 冊	312,331 冊	323,474 冊	318,980 冊
団体	16,014 冊	15,178 冊	21,653 冊	21,206 冊
合計	329,865 冊	327,509 冊	345,127 冊	340,186 冊

年間貸出冊数(児童書)				
年度	平成 26 年度	平成 28 年度	平成 30 年度	令和元年度
個人	148,581 冊	153,500 冊	162,994 冊	159,642 冊
団体	11,477 冊	10,470 冊	14,717 冊	13,722 冊
合計	160,058 冊	163,570 冊	177,711 冊	171,981 冊

## (2) 課題

### ① 図書館利用の普及

図書館をより多くの方に利用していただけるよう、館内行事・展示などを工夫し、広報を行っていく必要があります。

### ② 電子メディア依存への注意喚起

図書館は社会情勢の変化に応じて、読書を通じての親子の接し方や読書活動推進の取り組みを検討し、電子メディアとの両立について、考えていく必要があります。

### ③ 選書の大切さ

子どもの発達段階に応じた本を、引き続き司書等専門家の意見を取り入れた選書を実施していく必要があります。

## 第3章 計画の内容

第3次計画に基づき実施した成果と課題及び情勢の変化を踏まえ、基本目標を達成するため、第4次計画の基本方針に沿って子ども読書活動を進めていきます。

基本目標 『子どもたちの豊かな心と未来への力を育む読書活動を』

### 1. 基本方針

#### (1) 子どもの読書活動にかかわる保護者等への啓発、支援

子どもの自主的な読書活動を推進するためには、乳幼児期から保護者をはじめ、子どもたちと直接かかわることの多い教職員・保育士等が、子どもの読書活動の意義や重要性について十分な関心を持ち理解することが重要です。そのための多様な支援を行っていくよう取り組みます。

#### (2) 子どもの読書機会の提供、発達段階に応じた読書環境の充実

小学校・中学校において読書に親しむ機会を積極的に提供し、子どもたちの読書への関心や意欲を高めるとともに、本市のすべての子どもたちが、その発達段階に応じた本と接することができる読書環境の充実に努めます。

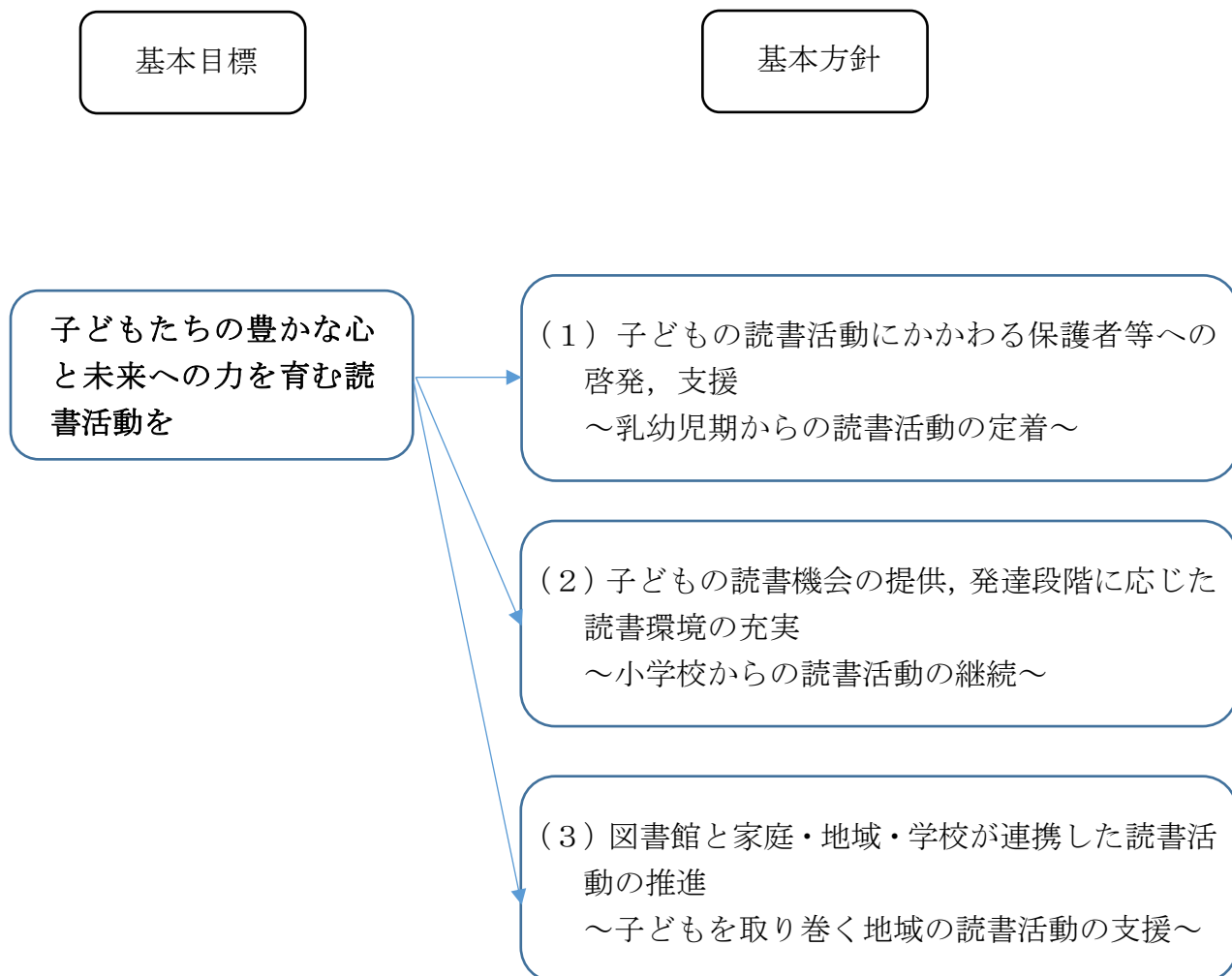
#### (3) 図書館と家庭・地域・学校が連携した読書活動の推進

大橋記念図書館を中心に関係機関（家庭・地域・学校）が緊密に連携し、ネットワークの構築に努め、相互に情報を交換し、読書活動の推進に努めます。また、読書支援ボランティアなど地域の人々との協力体制を強化していきます。

### 2. 計画の期間

計画の期間は令和3年10月～令和8年9月までの概ね5年間とします。ただし、計画期間中においても必要に応じ見直しを行うものとします。

### 3. 計画の体系



## 第4章 今後5か年の具体的施策と数値目標

---

基本方針・基本目標に基づき、以下の具体的施策を実施し、数値目標を達成できるように取り組みます。

### 1. 子どもの読書活動にかかわる保護者等への啓発、支援

～乳幼児期からの読書活動の定着～

#### 【具体的施策】

#### (1) 読書機会の提供

絵本の読み聞かせ

毎日の保育の中で、子どもの興味や関心に応じて読み聞かせを行い、読書を楽しむ機会を提案します。

#### (2) 読書環境の整備

##### ① 絵本コーナーの設置

保育室の一角や図書室等に絵本コーナーを設置し、子どもがいつでも自由に手に取り、落ち着いた雰囲気の中で絵本等に親しめるよう環境を整備します。

##### ② 絵本の貸出

保育所（園）・こども園・幼稚園において、子どもが興味や関心のある絵本を選び、家庭で保護者に読んでもらうことにより、親子のふれあいを一層深めていくよう支援します。

##### ③ 職員研修の充実

保育士や幼稚園教諭を対象によい本の選び方・与え方・心に響く読み聞かせ等の研修会を開催します。

##### ④ 大橋記念図書館との連携

移動図書館車による巡回や団体貸出をさらに活用します。

遠足等で大橋記念図書館を訪れ、多くの絵本等にふれ、好きな絵本等を選ぶ楽しさを経験することを支援します。

子どもの読書活動の啓発やブックスタートによる読書習慣づくりの推進・家庭における親子読書等によって読書習慣の育成を支援します。

##### ⑤ 家庭での読書活動の啓発

保育所（園）・こども園・幼稚園での貸出や園だよりを有効に活用して、絵本の紹介や読書活動を推進するとともに家庭での読み聞かせの実践や、親子のふれあいや楽しみ方について啓発に努めます。

## 【数値目標】

週に1回以上の読み聞かせを実施

実 績 値			目 標 値
平成28年度	平成30年度	令和2年度	令和7年度
75%	77%	68%	80%

※実績値はアンケート調査より

## 2. 子どもの読書機会の提供、発達段階に応じた読書環境の充実

～小学校からの読書活動の継続～

### 【具体的施策】

#### (1) 読書機会の提供

##### ① 朝の活動を利用した一斉読書の推進

小学校・中学校の全学校を通じて、朝の一斉読書等、読書に親しむ時間を週1回以上設ける等、子どもの読書活動を推進します。

##### ② 「<sup>にさん</sup>2<sup>ろくまる</sup>3が60読書運動」の推進

##### ③ 学校図書室利用指導の充実

子どもが主体的に学校図書館を活用できるよう大橋記念図書館で実施する図書館学習等を活用して基本的な利用の仕方等を見童に指導します。

#### (2) 読書環境の整備

##### ① 学校図書館運営の充実・人的環境の整備と配置

小学校・中学校図書館に専任の職員や学校司書の配置充実に努めます。読書支援ボランティア育成講座や読書支援ボランティアを活用する等、相互に協力しながら図書紹介や読み聞かせの実施等、各学校の実情に応じ工夫した学校図書館運営に努めます。

##### ② 研修の充実

小学校・中学校の教諭および学校図書館関係者を対象に、学校図書館の充実と子どもの読書活動推進についての講演会等の開催に努めます。

##### ③ 学校図書館蔵書の充実

学校図書館の蔵書を確保し、発達段階に応じた読書環境の充実に努めます。

##### ④ 校内読書環境の整備

子どもの読書意欲を高め、調べ学習等に活用できる学校図書館を目指

し、図書分類や配架の工夫・本の紹介コーナーの設置・学校図書館だよりの発行等を行います。

### (3) 関係機関との連携

#### ① 大橋記念図書館との連携

団体貸出や図書館学習、出前授業を通して大橋記念図書館と連携を密にして学習資料を有効に活用し読書指導につなげます。

研修会等を活用して、学校司書が司書教諭や担任と協働した学習支援活動や調べ学習の支援等を推進します。

#### ② P T A ・地域読書支援ボランティア活動との連携

P T A ・地域読書支援ボランティアが、読み聞かせや学校図書館の書架の整理を実情に応じて行います。

#### 【数値目標】

家庭における本を読まなかった子どもの割合

実 績 値			目 標 値
令和 2 8 年度	令和 30 年度	令和 2 年度	令和 7 年度
小学生 (1～3 年) 1 %	小学生 (1～3 年) 2 %	小学生 (1～3 年) 2%	小学生 (1～3 年) 1%
小学生 (4～6 年) 3 %	小学生 (4～6 年) 2%	小学生 (4～6 年) 4%	小学生 (4～6 年) 2%
中学生 20 %	中学生 22%	中学生 25%	中学生 20%

※実績値はアンケート調査より

### 3. 図書館と家庭・地域・学校が連携した読書活動の推進

～子どもを取り巻く地域の読書活動の支援～

#### 【具体的施策】

##### (1) 読書機会の提供

#### ① 読書に親しむ機会の提供

館内行事等において読書支援ボランティアによるお話し会等を充実し、家族で大橋記念図書館を利用してもらうことにより、本とふれ合う機会を増やします。また、季節や話題にあわせたテーマの本を紹介する特集コーナーを設ける等、図書情報を提供します。

移動図書館の機動性を活かし、定期的な巡回サービスによる資料の提供を行います。

② 乳幼児期における親子読書活動の推進

ブックスタート事業等の活動を通して、親子のふれあいを通じた読書習慣の定着を推進します。また冊子等を作成・配布し、読み聞かせの実践の啓発に努めます。

**(2) 読書環境の整備**

① 児童図書資料の充実と読書環境の整備

子どもの発達段階にあった児童図書を子ども自らが選べる機会を設ける等、ニーズに応じた質量ともに十分な蔵書の構築を図ります。

② 推薦図書リストの作成

学校と協力して、国語教科書推薦図書コーナーの充実を図り、推薦図書リストを作成します。

③ 中・高校生に対する読書活動の推進

ティーンズコーナーに中・高校生の年代に合った幅広い資料を揃えるとともに、中・高校生向け図書館報を発行し、年齢に合った読書情報を積極的に発信します。

④ 障がいをもつ子ども等に対する読書活動の推進

障がいに応じた多様な資料の収集に努めるとともに、バリアフリー化や障がい者向け情報端末機器等の整備促進を図ります。

⑤ 国際理解を深める読書活動の推進

外国語で書かれた絵本等の収集に努め、関係機関と連携して、「外国語の絵本の読み聞かせ会」の開催に努めます。

**(3) 情報提供のネットワーク化**

県内公共図書館・他県公共図書館とのネットワーク化を推進します。

**(4) 人的体制の整備**

専門的知識を持った図書館司書の適正な配置に努めます。

図書館専門研修会に積極的に参加し、各種情報の収集や情報検索等の研修に努めます。

**(5) 読書支援ボランティア団体との連携と育成**

読書支援ボランティア団体等の活動を支援するため、読書支援ボランティア育成講座や意見交換会・発表会等の開催に努めます。

**(6) 啓発・広報の推進**

こどもの読書週間に読書啓発イベントを開催し、広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めることに努めます。



【数値目標】

① 大橋記念図書館における児童書の年間貸出冊数

実 績 値				目 標 値
年度	平成 26 年度	平成 28 年度	平成 30 年度	令和 7 年度
個人	148,581 冊	153,500 冊	162,994 冊	165,000 冊
団体	11,477 冊	10,470 冊	14,717 冊	15,000 冊
合計	160,058 冊	163,570 冊	177,711 冊	180,000 冊

② 図書館での読み聞かせ等行事の参加人数

実 績 値			目 標 値
平成 2 8 年度	平成 3 0 年度	令和 2 年度	令和 7 年度
779 人	779 人	767 人	800 人